

がとうございました。現在、建築物への着雪に関する共同研究という形で進めており、私はその代表として受賞したものと考えております。雪の少ない関東地方でも着雪や落雪の問題が表面

化しているので、その対策に資するためのデータ整備を早急に進めたいと思っております。

(千葉隆弘)

北海道支部機関誌「北海道の雪氷」発刊のご案内

2012 年度北海道支部研究発表会での発表論文を掲載した「北海道の雪氷」第 31 号が今秋出版予定です。「北海道の雪氷」は、北海道支部ホームページ上にて閲覧可能です。冊子体をご希望の方は有料で配布しますので支部ホームページの注文サイトから申込みをお願いします。「北海道の雪

氷」に関する Web サイトは、下記のとおりです (<http://www.seppyo.org/hokkaido/publications/journal/jcontents>)。

((独) 土木研究所 寒地土木研究所 高橋尚人)

(2012 年 6 月 22 日受付)

東北支部

東北支部大会の開催報告

2012 年度の東北支部大会(理事会, 総会, 授賞式, 特別講演会, 研究発表会)が 2012 年 5 月 18 日(金)・19 日(土)の両日にわたって、八戸工業大学(八戸市大字妙字大開 88-1)で開催され、会員を中心に延べ 30 名程が参加し、25 件の研究発

表と特別講演会が行われた(図 1)。なお、今大会は日本雪工学会北東北支部と合同で行われた。

特別講演会では、八戸工業大学大学院工学研究科土木工学専攻の金子賢治准教授から「3.11 震災における地盤と補強土の被害について」と題し、



図 1 研究発表会の様子(撮影: 根本征樹)

お話しいただいた。講演では十分に突き固めた土壌構成粒子そのものと補強材との強い摩擦によって支持される堅固な構造である補強土壁工法について説明された上で、構造本来の耐震性は高いが、ほぼ垂直に近い土壁面は寒冷地で積雪による断熱効果が期待できないため道路等より凍上による被害を受けやすく、凍上によるダメージを受けた補強土壁の耐震性が低下し、終には東日本大震災時に崩壊した実例を示した他、昨今の環境負荷配慮上の制約から粘土・シルトを含む現地発生土の利用がこうした凍上被害を増長する可能性について指摘した。さらに津波被害に関し、土壌本来は水による浸食には脆弱なものの補強土壁の高い津波抵抗性が実例により確認され、長期に渡る健全性(経年劣化対策)や景観への配慮という面では既存のコンクリート防潮堤を置きかえるやもしれない可能性をもっていることをご紹介いただいた。

また、今年度の東北雪氷賞が、功績賞 1 名、学術奨励賞 1 名に授与された。特別講演と研究発表の内容は今夏発行予定の「東北の雪と生活」27 号に掲載される予定である。なお、今大会は日本雪工学会北東北支部の熊谷浩二先生のご尽力により、八戸市での開催にこぎつけた。ここに記して感謝の意に代えたい。来年度の東北支部大会は秋田県で開催される予定である。

第 1 日目 5 月 18 日(金)

理事会 9:30~10:45

総会・授賞式 11:00~12:00

[審議内容]

- ・2011 年度事業報告、会計報告
- ・2012 年度事業計画、予算計画
- ・2012 年度東北雪氷賞受賞者選考結果報告
- ・その他

[東北雪氷賞受賞者]

功績賞：力石國男（ノースアジア大学教授・弘前大学名誉教授）

「降雪機構および積雪変動に関する気候学的研究ならびに（社）日本雪氷学会東北支部の発展に寄与した功績」

学術奨励賞：朝岡良浩（東北大学大学院工学研究科助教）

「降雪・積雪・融雪の分布と水質形成に関する研究」

研究発表会

雪・積雪 13:10-14:55

座長：野口正二（森林総合研究所・東北支所）

根本征樹（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所）

1. 平成 24 年（2011/12 年）冬期の豪雪における新庄の積雪変化について
望月重人・小杉健二・根本征樹・佐藤研吾・阿部 修（防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター）
2. 2011-12 冬季の東北日本における降積雪の特徴
本谷 研（秋田大学教育文化学部）
3. 弘前大学白神自然観察園における積雪観測と 2010, 2011 年度の積雪概況
石田祐宣（弘前大学大学院理工学研究科）
4. 東シベリアタイガ林の土壌水分・温度と積雪の長期推定（2）
山崎 剛（東北大学）、鄭 峻介・杉本敦子（北海道大学）、太田岳史（名古屋大学）
5. 雪の保水能力
佐々木幹夫（八戸工業大学）
6. 積雪深の増加に対する圧密および風速の影響について
力石國男（ノースアジア大学）
7. 積雪多層モデルを用いた熱帯水河の熱収支特性
朝岡良浩（東北大学大学院工学研究科）、山崎 剛（東北大学大学院理学研究科）、風間 聡（東北大学大学院工学研究科）

蔵王・着氷雪 15:00-16:00

座長：赤田尚史（環境科学技術研究所）

8. 山形蔵王で採取した樹氷の化学組成の特徴
三浦崇史（山形大学大学院理工学研究科）・柳澤文孝（山形大学理学部）
9. 「樹氷」と「アイスモンスター」に関する新知見（予報）
柳澤文孝（山形大学理学部）、長澤壽三（長澤利彦）・須藤明子・須藤（長澤）江美（長澤写真館）
10. 山形蔵王における雪氷現象の観測（平成 23 年度）

沖田圭右・山谷 睦・沼澤喜一・小林英則・
原田俊明 (日本地下水開発株式会社)

11. 湿型着雪過程の気温依存性と東北地方における湿雪降雪条件

佐藤研吾・小杉健二・望月重人 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター)

観測・計測・災害 16: 05-17: 20

座長: 小杉健二 (防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)

佐藤研吾 (防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)

12. 切土斜面の凍上抑制工法の現地計測事例
野添重晃 (八戸工業大学大学院土木工学専攻), 金子賢治・熊谷浩二 (八戸工業大学), 渡井 忍 (マックストン(株))

13. 「雪庇」と「せり出し」対策の実規模野外観測
阿部孝幸 (KTB 協会), 松田 博・仲岡重治・滝本義久・掃部孝博 (神鋼建材工業株式会社), 阿部 修・小杉健二 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター)

14. 斜面積雪の移動量と速度に関する研究
大川 滋・栗林 健・斎藤浩之・熊谷 晃 ((株)興和), 阿部 修・小杉健二 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター), 塚原初男・東海林隆 (N-PSG 工法研究会)

15. インターバルカメラによる雪庇の発達過程の記録
阿部 修・根本征樹 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター)

16. 完成仕上の異なるボアホールでの採熱特性
山口正敏・沼澤喜一・山谷 睦 (日本地下水開発株式会社)

第2日目 5月19日(土)

特別講演会 9: 30~10: 15

「3.11 震災における地盤と補強土の被害について」

金子賢治氏 (八戸工業大学大学院工学研究科土木工学専攻 准教授)

雪況・雪渓・災害 10: 20-11: 35

座長: 山口正敏 (日本地下水開発株式会社)

原田鉦一郎 (宮城大学)

17. 2012 年青森県の雪況
佐藤清一 (終身会員), 小関英明 (秋田職業能力開発短期大学校)

18. 岩木山の雪形「クロウサギ」とその消長について

小関英明 (秋田職業能力開発短期大学校)

19. 鳥海山北東斜面における雪渓観測
後藤 博・梶川正弘・秋田雪の会雪渓観測グループ (秋田雪の会)

20. 吹雪発達に及ぼす降雪の影響について—あられによる積雪面の剝剝に関する風洞実験—
根本征樹・佐藤 威・小杉健二・望月重人 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター)

21. 山形県大蔵村で観測された自然発生の全層雪崩: その 2

阿部 修・上石 勲・小杉健二・根本征樹・望月重人・佐藤研吾 (防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター), 伊東靖彦・坂瀬 修・中村 明 (土木研究所)

環境 11: 40-12: 40

座長: 石田祐宣 (弘前大学大学院理工学研究科)

22. 2010/2011 年冬季における樹冠通過降水量の観測

野口正二 (森林総合研究所・東北支所)

23. 積雪ライシメーターに流入する融雪水の挙動について (2)

小杉健二・望月重人・阿部 修 (防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)

24. 小学校の校庭を利用した冬季土壤凍結深の測定

原田鉦一郎 (宮城大学), 吉川謙二・

岩花 剛 (アラスカ大学フェアバンクス校), 澤田結基 (福山市立大学), Julia Khalilova (IEG, RAS)

25. 青森県六ヶ所村における大気エアロゾル中水溶性ヨウ素濃度と粒径分布

赤田尚史・柿内秀樹・高久雄一・久松俊一 (環境科学技術研究所), 島 長義・菅野邦昭 (Entex)

(秋田大学教育文化学部 本谷 研)

(2012 年 5 月 28 日受付)